

ルワンダ気候変動等に対するレジリエンス強化事業（第2期）

対象国	ルワンダ共和国
事業概要	<p>平均経済成長率7%という顕著な経済発展を遂げるルワンダですが、都市部と農村部の間には依然として大きな経済格差が存在します。事業対象地であるギサガラ郡は、国内で2番目に貧しい郡であり、人口の45.6%が国の極度貧困ライン以下で生活をしています。さらに、昨今は気候変動の影響による自然災害（豪雨、地滑り、干ばつ、水不足等）が多発し、複合的な社会課題により脆弱性が高まっています。</p> <p>こうした背景を踏まえ、日本赤十字社は、ルワンダ赤十字社（以下、ルワンダ赤）と連携し、地域全体が直面する貧困や将来起こり得る災害に対して「自ら立ちあがる力（レジリエンス）」を高めることで社会課題の解決をはかる、レジリエンス強化事業を実施しています。</p> <p>第1事業期（2019年12月～2025年12月）では、給水設備やトイレ建設による衛生環境の改善や、家庭菜園の導入による子どもの栄養状態の改善、植樹活動による防災・森林の再生等、包括的なアプローチ「モデルビレッジアプローチ」により、人々のウェルビーイングの向上と地域のレジリエンス強化に貢献しました。第2期事業では、支援が届いていない新たな10村を対象に、引き続き包括的なアプローチによる地域のレジリエンス強化をはかっていきます。</p>
事業期間	2025年12月1日～2030年6月30日（4年7カ月）
地域・対象	ルワンダ共和国 ギサガラ郡 ムキンド地区 10村 直接受益者：1,892世帯（8,070人）、間接受益者：7,612世帯（32,516人）
目標	モデルビレッジアプローチを通じて、ギサガラ郡ムキンド地区の対象コミュニティにおける地域のレジリエンスを向上させると共に、政府の社会保護プログラムに貢献する。
成果	<p>成果1 対象コミュニティが、モデルビレッジアプローチに基づき、生活環境の改善に共同で取り組む。</p> <p>成果2 対象コミュニティが、災害リスクの低減と気候変動による影響の緩和に向けた活動に積極的に取り組む。</p> <p>成果3 モデルビレッジアプローチの取り組みが持続すると共に、成果が文書化され、他の地域にも普及する。</p>
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ世帯の生活環境改善に向けた活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>保健・衛生に関する知識の普及</li> <li>給水設備の建設、世帯用トイレの建設・修繕</li> <li>貧困世帯への家庭菜園を通じた栄養改善</li> <li>家畜の提供や貯蓄貸付組合の設立等を通じた生計支援</li> <li>ユース層のエンパワメント、生計支援</li> </ul> </li> <li>気候変動リスク（災害等）の低減・緩和のための活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>ルワンダ赤防災対策チームの強化、コミュニティ防災強化</li> <li>山肌の浸食防止対策と緑化事業（植林）</li> <li>調理用燃料のための木材利用削減、住居の屋根修繕</li> </ul> </li> <li>持続性を確保するための活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング、評価資料、啓発資料の作成、改訂</li> <li>政府や周辺コミュニティとの連携強化、ルワンダ赤支部の体制強化</li> <li>ボランティアの養成、ボランティア間のメンターシップ促進</li> </ul> </li> </ol>
事業費総額	約 235,798 千円